

エビデンスを超えるもの

Title; GBR and Ridge Preservation with minimally invasive surgical procedure utilizing Open Barrier Membrane

Technique

タイトル ; 膜開放型低侵襲性抜歯窩歯槽骨保存術及び歯槽堤増大術

Evidence-based medicineの重要性が1990年代に提唱されて以来、猫も杓子もEvidence-based medicineを唱えているが、しかしそのエビデンスは将来また新しい定義によって変化することも周知のことである。このことは40年以上継続して論文に基づいた臨床を行っている、その変化が確認できる。

そこで今回、エビデンス的にはGBR時に細胞遮断膜を完全埋包させなくてはならないが、この膜の一時閉鎖のために骨膜減張を行わなくてはならないことも周知の事である。その結果、患者はかなりの皮下出血、腫脹、疼痛を余儀なくされるので、このような術後の侵襲を避けるため、2002年以来応用している膜開放型低侵襲性抜歯窩歯槽骨保存術及び歯槽堤増大術について臨床を通して考察してみたい。